

# エゾナキウサギの生態調査に参加して

赤松敏子

あかまつ・としこ  
(ナキウサギふぁんくらぶ)

初めて調査に参加した五月上旬の調査地には、まだ雪がありました。ただただ、ナキウサギが可愛いと思っ、ふぁんくらぶに入会したので、調査に参加するなどは、全然考えてもみないことでした。なにも解らず参加した私ですので、最初は鳴き声も聞き逃したり、聞こえたと思っても確信が持てなかったり、この先どうなるのかしら、と不安なスタートでした。それに観察そのものは、その場にじっとしているので、「寒い」「足が疲れる」「座りたい」と、年相応の反応が芽生え始めたりしてました。でも、ひとたびナキウサギが姿を現すと一変して「あっ！出た」「可愛い」「なにか食べてる」記録もしなくてはならないし、写真も撮らなければならぬと、急に忙しくなるのです。

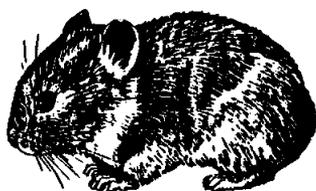
こんな様子で始まった観察は、十一月までほぼ隔週の割合で続きました。みんな本当によく通ったと思います。

また、往復の道すがら、若葉の芽吹き、満開の桜、五月の鯉のぼり、深緑の森、河原での水遊び、山の早い紅葉、たくさんの雪虫、そして初雪……その時々季節を感じながら通ったのです。こんなにゆっくと、季節を確認しながら週末を過ごしたことはありませんでした。

この生態調査に参加してから、本当にいろいろなものが、目に入ってきました。そのなかで、特にクモ（ハンモックサラグモ）の巣（クモを研究されている松田まゆみさんに教えて戴きました。）が、朝露に濡れ、そこに朝日が射してキラキラと

輝き、とてもきれいでした。私の中で、「クモの巣がきれい」と、感じることはとても意外なことです。「クモ！キヤー！」そんな反応しか出来なかった私です。そして、いかに私自身が何も知らなかったか、ひとつの事柄を意識してみると、それを取り巻く様々なことが見えて来ることを、今更ながら認識しました。

ナキウサギは、私に、彼らの生態だけでなく、同じ環境の中で生きるいろいろなものを見せて、そして、教えてくれました。調査はこれからも続きます。雪の残った岩の上に、ちょこんとすわったナキウサギに、また会いに行きましょう。



ナキウサギ



上 ナキウサギ

下 ハンモックサラグモ